REPORTER'S EYE

憩いの家はだれもが使える 市のお風呂屋さん

【リポーター】
曽根三知代さん（北入曽）

今回は、清掃センターの余熱を利用したお風呂など市民の保養の場、憩いの家をリポートしました。

リポーターズアイでは、行政のしくみや話題性のあることがらを、市民のかたがリポートします。

今月は、憩いの家をリポートしていただきました。

世代間の交流の場として 自由に気軽に使って欲しい

憩いの家、皆さんはご存じでしょうか？奥富の清掃センター近くにある市民の保養の場として作られた施設で、昭和59年に完成し、余熱を使った大浴場、70畳の大広間、健康機器を備えた保養室などがあり、年齢を問わずだれでも利用できるミニ版クアハウスといった所です。利用にあたっては、「他人に迷惑をかけない」という常識的なことを守れば自由に使うことができる施設です。料金は大人１００円、小学生50円（いずれも４時間）で、朝９時から夜９時まで（大浴場は別時間）利用することができます。セルフサービスが基本ですので、だれもが気持ち良く使えるよう、最低限のマナーは守りたいものです。

施設を簡単にご紹介すると、大浴場は、清掃センターの塵芥焼却で発生する余熱を利用したもので、センターと憩いの家を結んだパイプで常時50～60℃の湯が給湯され、それを42℃程度に調整し使用しています。利用は、朝10時30分から夜８時15分までです。大広間は70畳の広さに約１２０名を収容でき、舞台とオートチェンジャー式のカラオケが用意され、無料で利用できます。常連のかたも多く、カラオケをやるときなどは、自分たちでルールをつくり、順番に歌えるように利用者自身が工夫をして楽しんでいます。また、食事などの持ち込みも自由で、夕飯などを持ってきて保養所気分を楽しんでいるかたもいらっしゃるそうです。保養室は低周波で血流を整え、腰痛などの治療に使うヘルストロンやマッサージ機などがあり、利用者に人気のコーナーです。ほかにも、５人以上の家族やグループで利用できる談話室（予約が必要）、休憩室、売店（お菓子や飲み物）などがあります。

所長さんのお話では、ほかの市町村を見ても清掃センターの余熱を利用した老人福祉センターはかなりあるそうですが、市民だれもが利用できる市の保養施設となると珍しく、子供からお年寄りまで、世代間の交流の場として多いに利用して欲しいとのことでした。また、利用者の皆さんにリラックスしていただく施設として、「利用者一人ひとりが自分たちのもの（施設）と思って自由に気軽に使ってかわいがってほしいですね」と話してくれました。

今回、初めて憩いの家に伺い、いろいろと見学させていただきましたが、低料金で十分に楽しめ、リラックスできる憩いの家、次回は会社の同僚たちを誘って行ってみたいと思います。皆さんもこの「市が経営するお風呂屋さん」に行ってみてはいかがでしょうか。おすすめですよ。

Opinion コーナー VOL.29

西村　孝さん
（新狭山）

人と人のふれあいを 子供達に教えていきたい

私たちが子供のころは、雑木林や小川、入間川などでかぶとむしや魚を採ったり、探検したり、自然の中で遊んでいました。そこには子供同士のふれあいや協力があり、ときにはけんかなどしながらも人とのつきあいかた、分別、友達の大切さなどを学びました。今は環境も変わり子どもの数も少なく、ファミコンなどで一人で遊ぶ子どもが増え、このような子供達が幼稚園や小学校など、いきなり共同生活の中に入ったとき、戸惑いをもつのも当然のことでしょう。

そして、人とのふれあいや分別を知らないことが「いじめ」の一因になってるのではないでしょうか。私が所属する狭山青年会議所では、昨年から昔の私たちの体験を子供達に教える「わんぱく塾」を企画・運営しています。これは、子供達に型にはまったことをやらせるのではなく、私たちが「きっかけ」を作ってあげて、子供達自身が協力し合い、一つの目標を達成させるというものです。そのなかで、子供達に人とのふれあいや人の暖かさ、協力することの大切さを小さいうちから理解してもらい、大人になって行ってほしいと思います。そして私たちもそのなかで子供達のエネルギーを受けがんばれるのです。今年も私たちは「わんぱく塾」を開催します。大勢のわんぱくたちと会えるのを今から楽しみにしています。

狭山の生態系シリーズ㉒

カマツカ（コイ科）

撮影…県生態系保護協会狭山支部
髙橋　昇さん（中新田）

体長15㌢ほどの褐色のある体に小黒点を散らし腹側が扁平な底生魚で、雌は雄よりも大型です。砂や小石の底などを好み、よく砂にもぐったりしますが、あまり中層を泳ぎ回ることはありません。口先を突きだし砂といっしょに底生動物や藻類などを吸い込み、えら穴から砂を吹き出します。本州から九州の河川・湖などに生息し、シロギスと似ているため多くの地方でカワギスとも呼ばれます。

HOBBY

書

関口さんが「書」を始めたのは今から約10年前。きっかけは、銀座で見た、ある女性書家の展覧会でした。そのとき、「なんてきれいでなめらか、そしてすべるような字なんだろう」と思い、帰りには神田の古本屋へ行き書道関連の本をどっさり買い込んだそうです。西脇呉石の字が好きで、それをまねることから始め、毎日３～４時間は筆を持ち、書いた作品は数千枚、今ではかなりの腕前になりました。師匠はなく、独学で「書」を続けてきた関口さん、「人につかず、好きなように書いていきたい」と語ってくれました。

エネルギッシュ 狭山の企業㉒

西武通運株式会社
入間川１－１－１－54

50年の歴史のなかで 扱う業務も多種多彩に！

西武通運㈱は昭和18年、入間川の小沢、植村、尾崎の３運送業者が当時の国の政策に従い統合、入間川駅合同運送合名会社として発足しました。翌年、入曽通運、川越・所沢・東村山の４社と合併し現在の西武通運㈱が設立されました。当初は鉄道貨物の取り扱いが主な業務でしたが、西武鉄道の貨物扱い廃止に伴い通運営業からトラックと倉庫営業主体の業務となりました。その後50年経ち、扱い貨物は農産物から工業製品へと変化し、市役所などの移転を行う重量品部門、引越、トランクルームサービス、市の文書配送、更に飲食店経営や損害・生命保険の代理店業務と多種多彩な業務を扱うようになりました。